

新冠百話

新冠にまつわるお話しを集めた

第七十一話

「穂の小さな粟神の物語（伝説）」

（要約文）

私は穀物のアワ（粟）です。人間のお父さん、お母さんが私を播いては、年ごとに良い食糧としてたくさんのおアワを収穫して使いました。そのアワから、人間たちは神事に使うシトキ（神前に供える餅）を作るので、私たちはたいへん大事にされて暮らしていました。

ある年、いつもように私たちを播くと、すくすくと成長して畑いっぱい穂をもたげるようになりました。私たちの仲間は充分に大きくなり、一人前のアワになったのです。ところが、なぜか私だけは他の仲間よりも穂が小さいのです。やがて収穫の 때가くると、私は穂が小さいものだから、土の上へと投げ捨てられてしまいました。捨てられた私は、雨が吹くと雨にさらされ、風が吹き荒れると風にさらされ、そんなふうにして暮らしていました。

ある日、一人のおばさんが私のいる畑を通り、こちらの方にやって来て言いました。「おやまあ、あなたは私が欲しかった食糧の神様でいなさるのに。小さい穂だからと捨てられるなんて…」と言いながら、涙を流して拾い集め、籠一杯にすると、どこかへと私を背負って行きました。そして、私たちが行った先には、きれいな家が建っていました。

ました。おばさんがその中に入っていくと、今やすっかり長老となった一人の老人がいました。その老人に向かっておばさんは言いました。「おまえさん、喜んでおくれ。私がね、畑のあたりを通りかかったら、アワの神様の小さな穂が土の上に捨ててあるのですよ。大きな穂ばかりが収穫されたらしくて、私はそれを見て、食糧となる神様の仲間でも粒自体は普通で変わらないと思ったものだから、それを集めて背負ってきたのですよ」

それから、おばさんは乾燥用のすだれをおろし、私をひろげて干しました。それから、私がすっかり乾くと、おばさんはシトキを作りました。家の長老は、幣壇（ぬさだん）を統率する神に向かって丁寧に祈りを捧げました。そうすると、神様すべてに喜ばれたのです。私自身もこうなったことをたいへん喜びました。それからは、おばさん夫婦をお金持ちにしようと、私は他の仲間たちに負けないくらい立派な穂をつけました。それを収穫してはシトキを作り、神に祈りを捧げることで、本当のお金持ちになることができたのです。

食物の神様のおかげで人間は生きていくものだから、決して粗末にはいけない、とアワの神様は語ります。



秋の全国交通安全運動（9/21～9/30）が実施されます！

- 子供と高齢者をはじめとする歩行者の安全の確保
 - 夕暮れ時と夜間の事故防止と歩行者の保護など安全運転意識の向上
 - 自転車の安全確保と交通ルール遵守の徹底
 - 飲酒運転等の悪質・危険な運転の根絶
- 静内警察署

戸籍の窓

7月21日～8月20日までの届出分（敬称略）

●いつまでもお幸せに
成田 崇将 ♡ 中川 もみじ 中央町

●おくやみ申し上げます
中川 ユリ 95歳 美 宇

☆広報に掲載してほしくない方は届出のとき、町民生活課町民生活グループ住民係へお申し出ください。

●お問い合わせ先
町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
8月	0件(0件)	32件(36件)	1件(6件)
6年1～8月	4件(3件)	182件(237件)	11件(21件)
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
8月	0件(1件)	0人(0人)	0人(1人)
6年1～8月	2件(3件)	0人(0人)	5人(3人)

人のうごき

(令和6年8月末現在)

人口	5,065人	(前月比 - 16人)
男	2,545人	(前月比 - 2人)
女	2,520人	(前月比 - 14人)
世帯	2,828世帯	(前月比 - 5世帯)

町公式ホームページ



町公式フェイスブック

